

鹿児島県・沖縄県の約50年前の母子関係

寺	脇	保	(鹿児島大学小児科)
馬	場	泰	光()
吉	沢	一	樹()
南		道	子()
大	木	洋	美()

まえおき

子どもの健全な成長と発達に、多大な影響を与えるのは、母親であります。現在、子どもたちは物質的に恵まれ、育てられていますが、その反面、家庭内暴力、非行化、登校拒否などの問題が、クローズアップされてきています。

私どもは、古い日本の母子相互関係の原型が残されているかもしれないとの考えから、一昨年離島において、アンケート調査を行って見ましたが、不十分な面も出てきましたので、さらに、離島の古老の方々に、それぞれの育児法について、直接インタビューしてみました。その結果を、ご報告いたします。

対象・方法

今回、私どもは、屋久島、奄美大島、沖縄本島、波照間島、与那国島を選び、調査を行ないました。(図1)

対象は、60代から104才までの15人のおばあちゃん方で、さつま半島1名、屋久島2名、奄美大島3名、沖縄本島6名、波照間島1名、与那国島2名です。(表1)

この15人の方々のうち、5人以上の子どもさんを育てた方が10人いました。(表2)

質問事項は、生理、結婚、妊娠、出産、乳児期の育児法、幼児期の育児法、学童期の育児法、しつけ、年中行事、がん具、芸事、学問、親の期待などについて、お話を伺いました。(表3)

人によっては、記憶があいまいなこともあったのですが、大部分の方々から、十分なインタビューをとることができました。

その他、離島のおじいちゃん方にも、昔の風俗習慣について、お話を伺いましたが、それは、今回は、省かせていただきます。

結果および考察

結婚は、大半は、親同志が決めるか、お見合いが多く、なかには、恋愛結婚もありましたが、頻度は少ないようです。親の言いつけのまま素直に結婚した人もいれば、親の言うことをきかないと勘当だと言われて、イヤイヤ押しつけられて結婚した人もいましたが、結構、幸福な人生だったという回答が多いでした。

結婚式は、自宅で式をあげ、親せきの人が祝い、質素なものだったようです。

初潮は、早い人で13才、遅い人で18才でみられ、初潮に対する知識は親から教えられずに、友人からきいたというのが、ほとんどでした。特に、初潮をみた時のお祝いはしないことが多く、その時の気持ちとしては、非常にはずかしかったと答えています。(表4)

妊娠を知った時は、大半の人がうれしいと感じていますが、中には、5カ月、6カ月になって、お腹が目立つようになると、はずかしくて親の家にも行きにくかったと話していました。

妊娠中の食事ですが、今のように、栄養を考えるとということもなく、普段と全くかわらず、かえって、つわりで食がすすまず、さつまいもやニラのみそ粥、梅干しなどだけで、2~3カ月間過ごしたという人もいました。現在のように、食料も豊富でないために、栄養を考える余裕などなかったようです。しかし、インタビューを実施した方々には、流産、早産の既往のある人はいませんでした。

また、沖縄本島では、妊娠中にタコを食べるとイボができるとか、トリを食べると早産するとか、波照間島では、山羊、犬を食べると早産するとかいわれて、予定日までは、口にせず、予定日を過ぎると、早く産れるように、トリや犬や山羊を

食べたといったような、地域特異的な習慣もみられました。

妊娠中の生活態度ですが、全員が、妊娠前と全然かわることなく、家事はもちろんのこと、畑仕事や山仕事など、重労働に耐えていたようです。生活が苦しく、子どもの数も多いために、妊娠中でも、重要な一家の労働力と考えられていたのではないのでしょうか。

安産の祈りは、仏壇を拝む程度で、特別なことはしなかったようです。(表5)

お産は、大半が自宅で、仮の助産婦さんやとりあげばあちゃんに来てもらっていたようですが、出産間際まで仕事をしていたために、山の中や畑や戸口などで出産したという方もいましたし、また、助産婦さんのいない所では、自分一人で産んだ方もいました。それでも、全員の方が安産だったということです。ただ、新生児期の経過がおもわしくなく、子どもを亡くしたと答えた人は2人あり、生まれて一週間してから名前を考えていたといったような慣習もあったようです。(表6)

産後、半数以上が、二週間以内に働き出しており、ゆっくり休んでいる生活の余裕がなかったようです。(表7)

栄養法は、現在のように、安易に人工乳を与えることができないので、妊娠中の粗食、重労働にもかかわらず、全員が母乳で育てていました。

離乳食は、特に手をかけずに、自分たちの食事を与え、離乳開始も完了も遅かったようです。今のように、離乳食ノイローゼになることもなく、自然に子どもは育っていったようです。(表8)

乳児期は、母親がだっこするひまなどなく、兄弟が多いので、上の子が下の子をおんぶして学校に行ったり、兄弟同志や近所の子どもが大勢で集って、遊んでいたようです。

乳児期のおもちゃは、ガラガラ程度しかなかったようですが、上の子は下の子の子守りをよくして、子守り歌や、わらべ歌を歌ってあげていました。

幼稚園は、その時代はなく、お金がなかったので、幼稚園がなくてよかったとおっしゃる方もいました。

幼児期・学童期の遊びは、男の子は、竹とんぼ 竹うま・こままわし・たこあげ・木のぼり・おにごっこ、女の子は、ままごと・まりつき・おはじ

き・お人形ごっこなどをして、いろいろながん具を自分たちで工夫して作って遊んだということです。

また、部落での年中行事には、親子で、できるだけ参加しております。(表9)

小学校にあがるようになると、弟や妹を背負って、学校に行くのも珍しくなく、この頃から、炊事や畑仕事、草刈り、水くみなどの手伝いをさせられていました。

最近では、塾をはじめ、ピアノその他いろいろ習い事をしているのが普通ですが、昔は、塾などもなく、また、習わせるような余裕もありませんでした。(表10)

男の子と女の子で、目立った差別はありませんが、食べものや洗たく方法などで差をつけるころもありました。また、長男を重んじる傾向にあるように思われました。

病気になる時は、当時は、病院は少なく、放置する人も多く、おほらいや、与那国島ではしゃ血に頼る人もいたようです。(表11)

宗教は、沖縄県では祖先崇拜が多く、その他の島では仏教が大半でした。(表12)

最近、家庭内の父権喪失が問題となっていますが、この頃はそういうこともなく、父親が子どもをたたいたりといった暴力をふるうこともあまりなかったけれども、父親というのは絶対服従の存在として確立していました。しかし、父親は忙しい中にも時間があれば、子どもと竹うまやこまなど作っていっしょに遊んでいたようです。

日常生活の中で、しつけの基本を1つか2つ必ず守らせるよう努力はしておりますが、表15のように、あまり複雑なことはやっております。(表13)

む す び

約50年前の母子関係をみたのですが、昔は想像以上に生活に追われていたために、育児という面では悲惨であり、現在の方がはるかに進んでいるということがいえると思います。しいて昔の方がよかったという面を言えば、子どもが親の生きざまをよく見て育ったということ、かつ、自然に親しんで育っていたということは言えるようです。

昔の庶民の生活では、とび抜けて社会的地位を得た人は数少なく、割と放任の傾向があったので

すが、このような生活の中でも、社会的意味での悪事を働く子どもは少なかったというのも特徴的で、これをどう解釈するか問題であります。

なお、以上の育児傾向は、さつま半島、屋久島、奄美大島、沖縄本島、波照間島、与那国島においてほとんど変わりありませんでした。

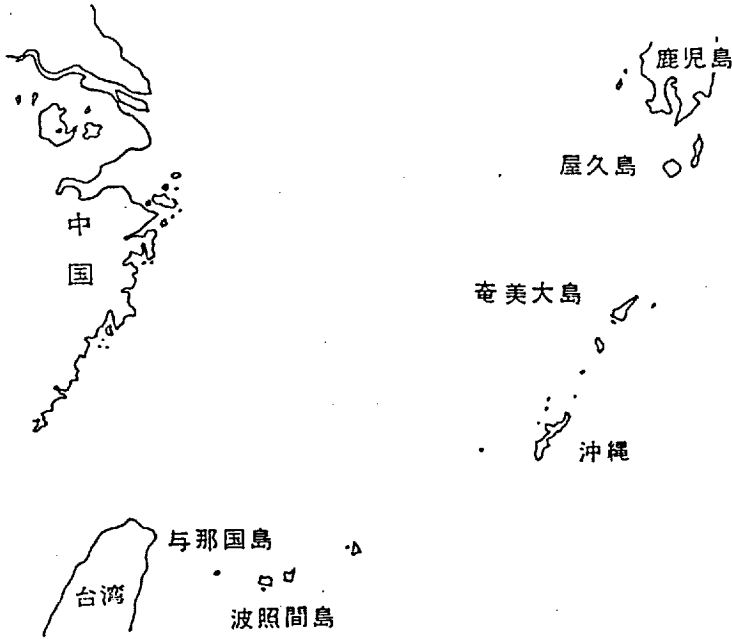


図1

表1. 対象

屋久島	2名
奄美大島	3名
沖縄本島	6名
波照間島	1名
与那国島	2名
薩摩半島	1名
計	15名

表2. 子供の数

1人	1名	6人	3名
2人	1名	7人	1名
3人	0名	8人	2名
4人	3名	9人	2名
5人	2名		

表3. 質 問 事 項

- | | |
|---|---|
| <p>1. 生 理</p> <p>2. 結 婚</p> <p>① 見合い or 恋愛, いやいや結婚したか</p> <p>② 結婚式はどんな形式か</p> <p>3. 妊 娠</p> <p>① 妊娠を知った時の気持
喜び——それは何で感じるか, 胎動</p> <p>② 食事——何カ月位ちがった食事をしたか,
具体的に</p> <p>③ 生活態度——母親の仕事について, 内容量
の変化</p> <p>④ つわり——実際のつらさ</p> <p>⑤ 精神衛生</p> <p>⑥ 祈り——安産の願い, 信仰</p> <p>4. 出 産</p> <p>① 場 所 実家に帰るか</p> <p>② 方 法 助産婦さん</p> <p>③ つらさ 赤ん坊をみたときの感じ</p> <p>④ 日ばれ</p> <p>⑤ お祝について</p> <p>⑥ 家 事 家事以外の仕事, 同居人との関係</p> <p>⑦ 栄養法</p> <p>5. 乳児期</p> <p>① 授乳のしかた, 離乳のすすめ方, 何を食べ
させたか</p> <p>② だっこについて</p> <p>③ あそばせ方, おもちゃ</p> | <p>④ 男女の差</p> <p>⑤ 祖父母の子に対する態度</p> <p>⑥ 父親の子に対する態度</p> <p>⑦ 育児の相談相手</p> <p>⑧ お祝(七五三とか……)</p> <p>6. 幼児期</p> <p>① どんな遊びをしていたか, 今の子供の遊び
のちがい</p> <p>② 幼稚園</p> <p>③ しつけ(排尿, 排便, 食事, 行儀作法のし
つけ)</p> <p>④ 病気になった時どうしたか</p> <p>⑤ 家の手伝いについて</p> <p>⑥ 子供とどんなことをして遊んでいたか</p> <p>⑦ 仕事をしている時の子供はどうしたか</p> <p>7. 小学校</p> <p>① 勉強</p> <p>② 遊び</p> <p>③ 仕事とのかかわり</p> <p>④ 学校での行事への参加</p> <p>⑤ 病気の時</p> <p>8. しつけ</p> <p>9. 年中行事</p> <p>10. がん具</p> <p>11. 芸 事</p> <p>12. 学 問</p> <p>13. 親の期待</p> |
|---|---|

表4.

生 理 (初潮)

13才~18才

結 婚

恋 愛 3名

お見合い or 親が決める 12名

結婚式

自宅で質素に

表5. 妊 娠

1) 妊娠を知ったとき	
うれしい	9名
重 荷	1名
はずかしい	1名
びっくり	1名
不 明	3名
2) つわり	
つらい	5名
軽 い	10名
3) 食 事	
変化なし	15名
沖 縄	タコ、トリを食べない
波照間	ヤギ、イヌを食べない
4) 生活態度	
変化なし	15名
5) 祈 り	
仏壇を拜む	5名
特になし	10名

表6. 出 産

1) 出産場所	
自宅・山・畑	13名
病 院	2名
2) 方 法	
助産婦	7名
自分で	6名
病 院	2名
3) 安産かどうか	
安 産	15名

表7. 日ばれ

7 日	5名
7～14日	3名
14～21日	3名
1 月	2名
不 明	2名

表8.

栄 養 法	
母 乳	15名
離 乳 食	
特別に手をかけずに、	
離乳開始も遅かった	

表9. おもちゃ・遊び

1) 乳児期	
ガラガラ・子守り歌	
2) 幼児・学童期	
竹とんぼ・竹うま	
こま(木製、貝がら)	
たこ・おにごっこ・木のぼり	
ボール投げ・ままごと・まりつき	
お人形ごっこ・わらべうた	
おはじき(貝がら)	
3) ほとんど、年中行事に親につれられて行く	

表10. 芸 事

習字・そろばん	2名
ピアノ	1名
な し	12名

表11. 病気をした時

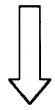
健 康	5名
病 院	5名
しゃ血	1名(与那国)
おはらい	1名
不 明	3名

表12. 宗 教

仏 教	5名
祖先崇拜	5名
キリスト教	2名
不 明	3名

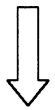
表13. しつけ

ほったらかし
仏壇を拜む
礼儀作法
よい子になりなさい
食事をわけあう
人の物を欲しがらない
女の子は裏表のない優しい人間になりなさい
うそをつかない
人に迷惑をかけない
悪い道にすすまない
清く正しく健康



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



まえおき

子どもの健全な成長と発達に、多大な影響を与えるのは、母親であります。現在、子どもたちは物質的に恵まれ、育てられていますが、その反面、家庭内暴力、非行化、登校拒否などの問題が、クローズアップされてきています。私どもは、古い日本の母子相互関係の原型が残されているかもしれないとの考えから、一昨年離島において、アンケート調査を行って見ましたが、不十分な面も出てきましたので、さらに、離島の古老の方々に、それぞれの育児法について、直接インタビューしてみました。その結果を、ご報告いたします。